町畑小

主体的に学び合う子どもの育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を目指して～（３年計画の１年次）

校長　　後　藤　　浩

１　研究主題について

本校では、教育目標に「心豊かにたくましく」と設定し、どの子にもわかりやすい授業をすることで、一人一人が生き生きと明るく学ぶ活気に満ちた学校を目指して教育活動を展開している。

昨年度までは、研究主題を「学びを生かす子どもの育成」とし、導入から課題設定までの発問や教材提示に工夫を凝らして、既習とのずれを感じさせるようにしたり、振り返りでは視点やキーワードを与えて書かせたりして、既習を生かしながら主体的に課題を解決しようとする児童の育成を目指してきた。その結果、分かったことやできたことを振り返り、友達との関わりから自分の学びが広がったことや次に生かしたいことなどを書く児童が増えてきた。一方で、教育活動のアンケートにおいて、児童から「自己肯定感や自己有用感」と「相手を意識して表現する」の項目について、肯定的な自己評価が得られなかった。また、授業においては、自信のない問いに対して消極的な態度を見せる児童が多く、一部の児童で学習が進んでいる傾向がある。

このことから、主体的・協働的な学びを通して児童の自己肯定感や自己有用感を高めることを目指して本研究主題を設定するに至った。３年計画の１年次として、今年度は国語科説明文の学習において、全ての児童が自分の立場を決定することができるような教材提示や発問を工夫し、学習のゴールを明確にした授業展開を目指す。また、自分の考えや根拠について意見交流して学びを広げ、集団解決の場で学びを深めるための板書についても研究する。さらに、日常的に安心して表現できるように、教師が児童の発言を肯定的に価値づけたり、話し方・聞き方などの学び合いの基礎的技能の向上を図ったりすることで、主体的に学び合う児童の育成に努め、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。

２　研究のねらい

「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を目指し、主体的に学び合う子どもを育成するための国語科（説明文）の指導の在り方を明らかにする。

３　研究仮説

児童が主体的に取り組む課題設定の工夫や協働的に解決する場面における学びを広げ深める手立ての工夫を行うことで、主体的に学び合う子どもを育成することができる。

４　研究内容

⑴　児童が主体的に取り組む課題設定の工夫

ア　教材提示や発問等の働きかけ

イ　自分の考えや立場の可視化

⑵　学びを広げ深める手立ての工夫

ア　意見交流の方法

イ　集団解決場面の板書

５　研究の経過

⑴　研究仮説に基づく研究授業等

月	日	学年・授業提案者（報告者）・題材名・講師
6	1	第１回授業研究（３学年）　授業者：髙谷　園江　　国語「こまを楽しむ」 講師：八戸市立長者小学校　教頭　上柿　尊志氏
7	20	指導課訪問授業実践報告会
11	10	第２回授業研究（５学年）　授業者：三橋　亜未　　国語「固有種が教えてくれること」 講師：八戸市立長者小学校　教頭　上柿　尊志氏
2	22	国語科（説明的文章）授業実践報告会

⑵　一般研修

月	日	内容・講師
6	29	「国語科説明文における指導方法、問題解決的な授業づくり」 講師：八戸市教育委員会　教育指導課主任指導主事　福田　秀貴氏
7	13	「一人一台端末の活用について」 講師：八戸市総合教育センター主任指導主事　石井　一二三氏
7	20	「エピペンの使い方について」 講師：本校養護教諭　佐藤　春花
8	19	「外国語教育について」 講師：八戸市教育委員会　教育指導課副参事兼主任指導主事　日向端　聖氏
1	10	「AED 救命救急講習会」 講師：八戸市東消防署署員

６　研究の成果

⑴　授業の導入において、ずれや疑問、解決意欲が生じるように教材提示を工夫し、板書や赤白帽子、タブレット端末等で立場の選択を可視化させたことで、根拠や理由を表現しようと主体的に課題解決に向かう姿が多く見られた。

⑵　同じ立場同士で考えを伝え合ったり、異なる立場で理由や根拠を示し合ったりしたことで、学びを広げ深めていくことができた。また、教師が児童に考えを変化させた理由を問うなどして児童の発言を促したことは、児童の学びを深めることに効果的だった。

７　研究の課題

⑴　立場の表明や教材提示の工夫は児童の意欲を喚起するきっかけとなったが、根拠や理由を表現するための手立てを必要とする児童が多かった。より多くの児童が、意見交流に参加できるように、個別のつまずきに対する手立ても充実させたい。

⑵　タブレット端末を生かした立場の表明や意見交流の可能性を探っていくために、情報モラルを繰り返し指導していく必要がある。

⑶　今年度の研究では、集団解決の場面の板書を手立てとして、児童の話し合いが広がり深まることの効果は得られなかった。教師がファシリテーターとして意見をつないだり、掘り下げたりしながら、効果的な板書ができるように今後も研修を重ねたい。

（記入者　髙谷　園江）